

概況

1/9～11に千葉丸(317ト)で沿岸定線観測を実施した。低塩分水の南下状況を把握するためにK1～K12の12定点を追加して観測した(図1)。1/10の黒潮は、三宅島付近を通過し、房総半島沖を東へ流去していた(図2)。観測時における黒潮離岸距離は表1のとおり。解析には茨城県水産試験場が1/10～15に実施した定線観測の結果も用いた。

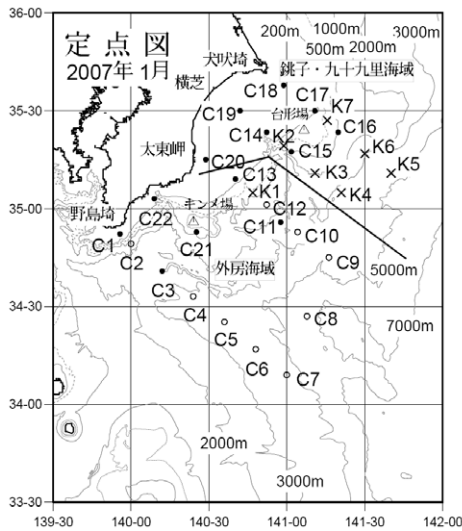


図1 定点位置(黒丸が水温の評価観測点)

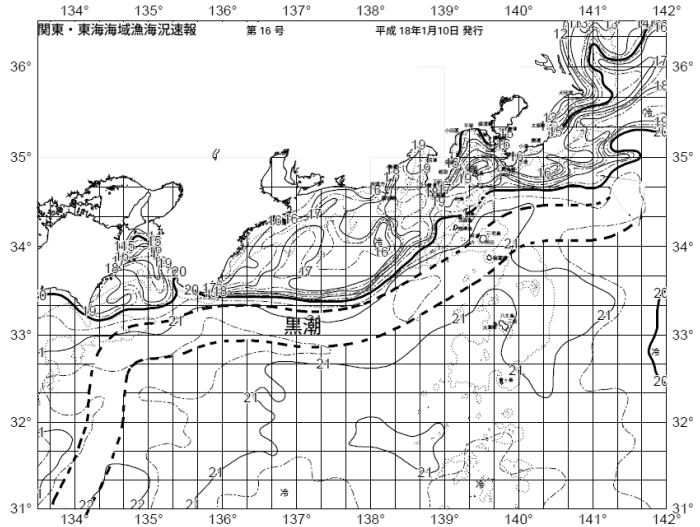


図2 1月10日の海面水温分布

表1 房総半島沖の黒潮離岸距離 (2007年1月)

基点・方向	距離(マイル)	階級
野島埼・南東	30	やや接岸
太東岬・南東	50	—
犬吠埼・南東	(54)	平年並

\*(数字)は海洋速報(海上保安庁海洋情報部)より

表2 水温の評価 (2007年1月)

水深(m)	外房海域			銚子・九十九里海域		
	水温	平年偏差	評価	水温	平年偏差	評価
0	17.2	-0.4	平年並	16.5	-0.3	平年並
50	16.50	-0.87	平年並	17.00	-0.59	平年並
100	15.11	-1.76	やや低め	15.04	-1.59	やや低め
200	11.75	-2.44	やや低め	11.40	-3.18	低め

\*水温は各海域の評価点の平均値

**水温の評価(表2)** 先月と同様に、両海域において海面と50m深では「平年並」、100mと200m深では「低め」～「やや低め」であった。海面と50m深は、野島埼南東沖で黒潮が30マイル沖付近を流れていたこと、太東岬南東沖～犬吠埼南東沖では暖水が波及していたことから100m以深より高めの評価になったと考えられる。

海洋構造の特徴

- ①太東岬南東沖～犬吠埼南東沖の沿岸から40マイル内の海域において、水温17～18℃台、塩分34.6以上の黒潮系暖水が100m以浅でみられた(図2・3・4)。
- ②犬吠埼南東7マイル沖にある観測点C18では河川水の影響を受けたと考えられる33.5以下の低塩分水が観測された(図3・4)。
- ③犬吠埼南東定線では、塩分34.1以下の海水が120m深と400m深付近に分布し、横芝南東定線でも400m深付近に塩分34.1以下の海水がみられた(図4)。

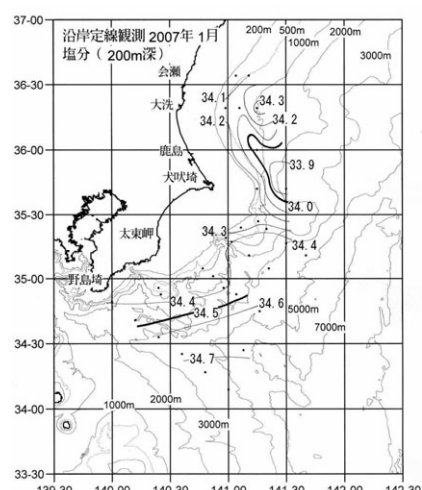
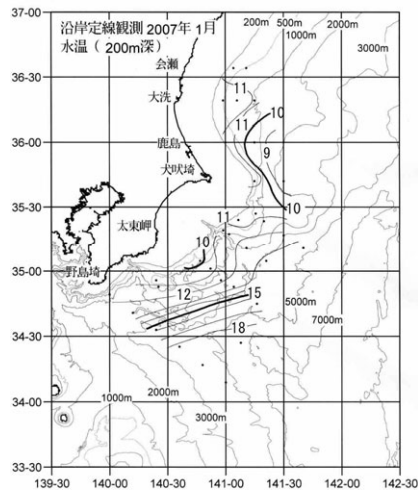
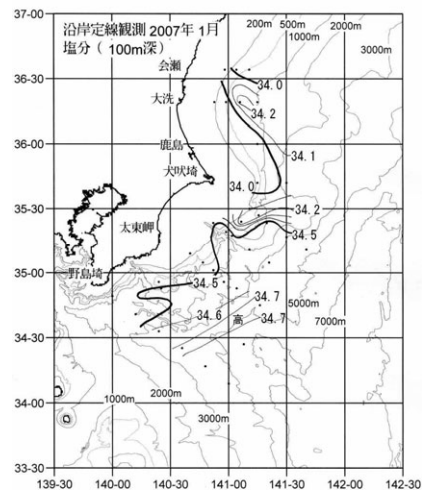
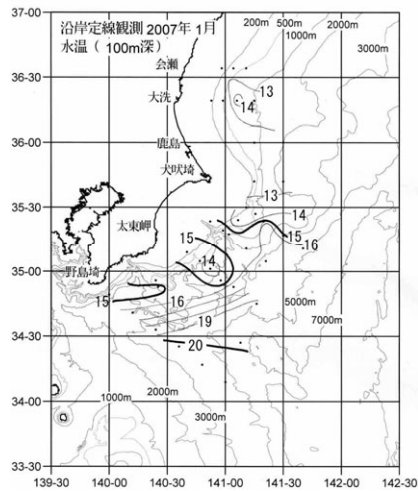
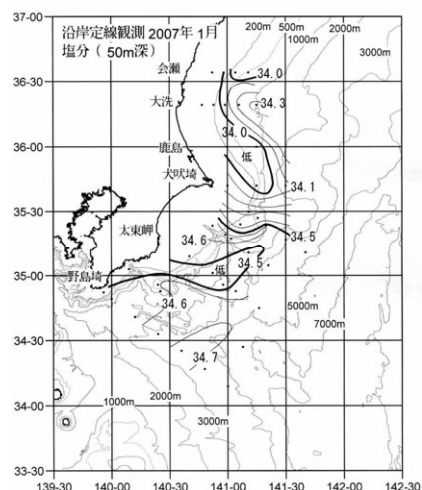
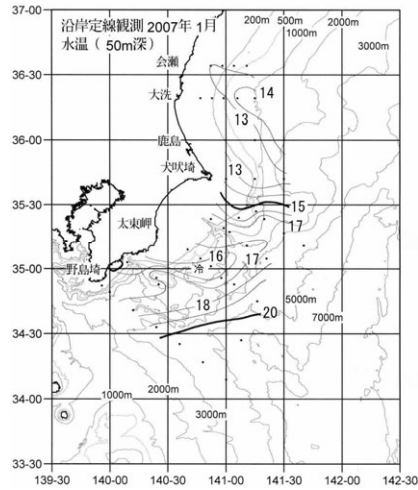
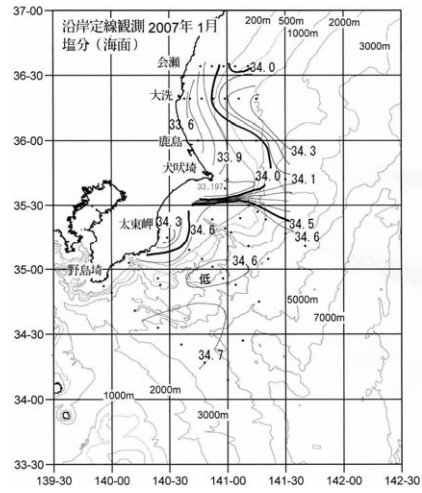
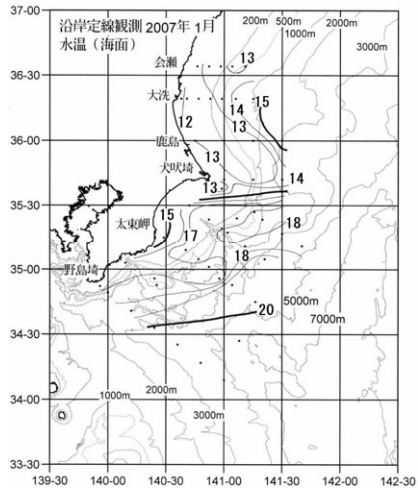


図3 水温・塩分の水平分布

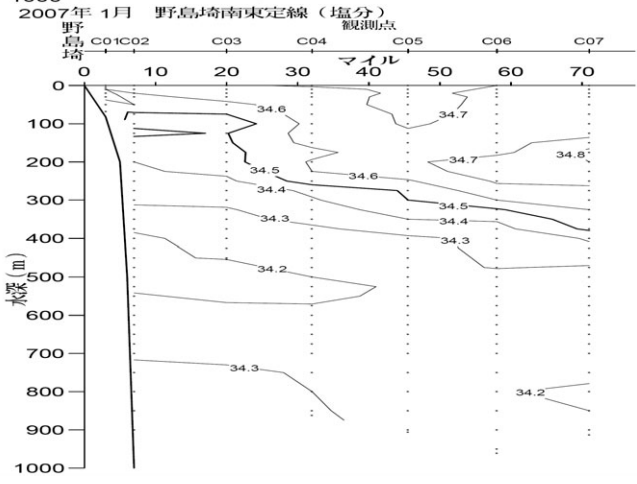
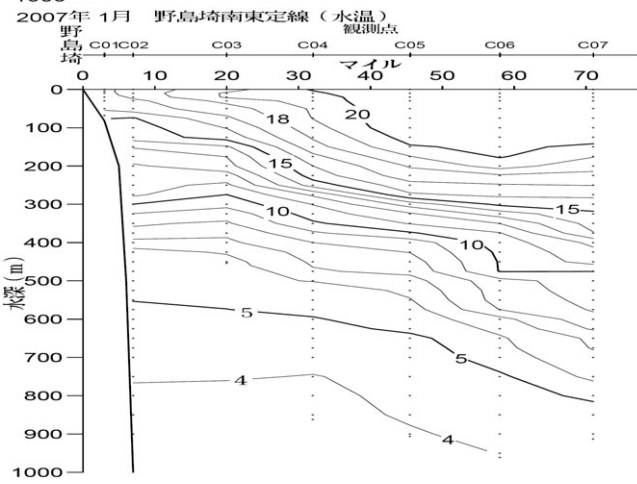
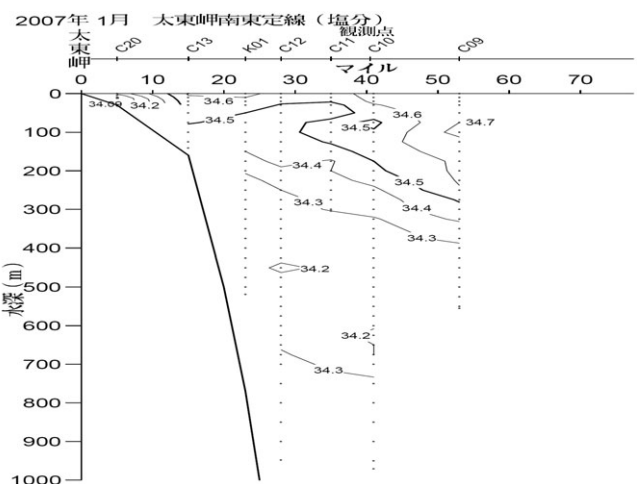
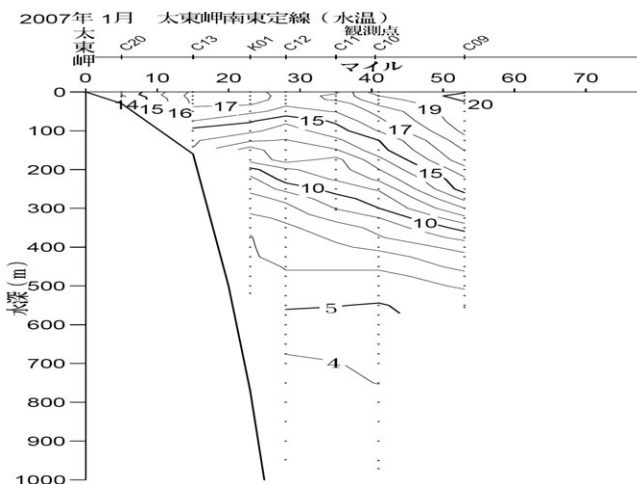
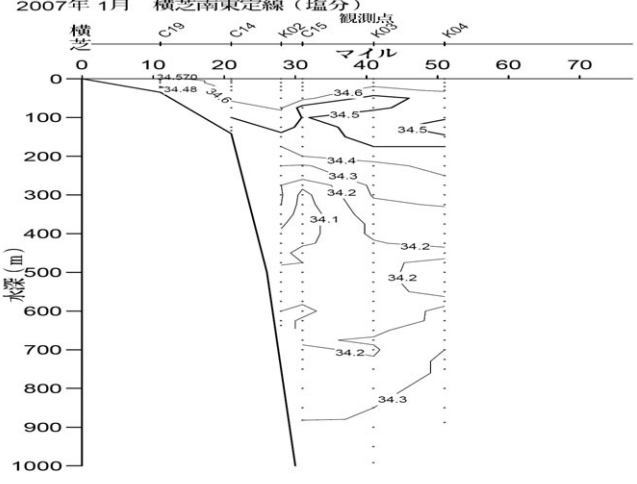
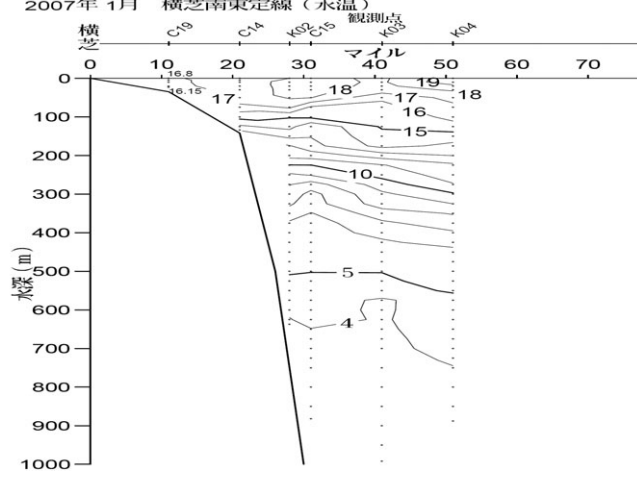
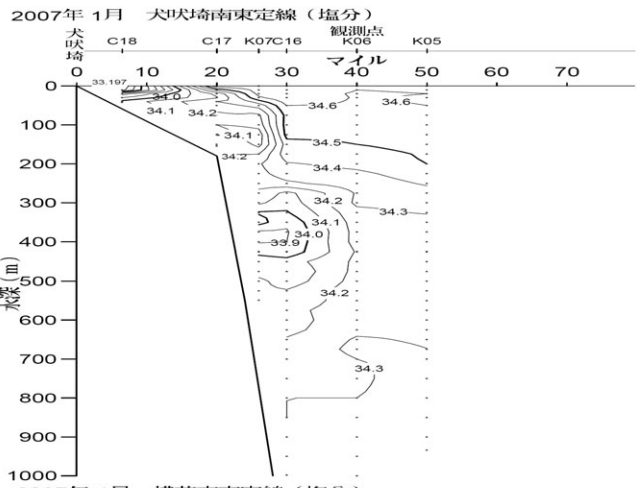
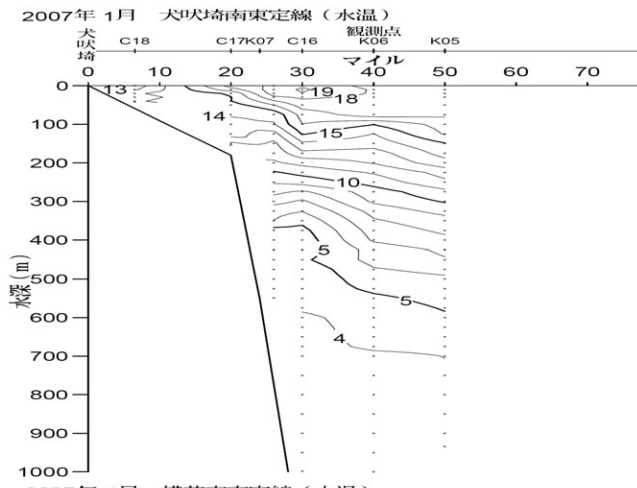


図4 水温・塩分の鉛直分布